

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 2月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201322
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 清水梅ヶ谷の家
所在地 (電話番号)	静岡市清水区梅ヶ谷227-1 054-349-7300
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年12月19日

【情報提供票より】(平成19年10月18日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12 人, 非常勤 2人, 常勤換算 9.4人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	高熱水費 12,000 円
敷 金	○有(100,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(12月21日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 78 歳	最低	54 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水厚生病院 田村歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者の交替から1年半、「全ての人に喜んでもらえるように」との管理者の思いを職員が受け止めて、方向をひとつにまとまりのあるホームとなった。ホームの明るさは、「全ての職員が生き生きとしている」という家族の評価とも合致している。自立に向けたリハビリや口腔ケアへの取り組みと成果は模範事例にもなり得るほどである。日常でも行事においても主体は利用者であることを前提に支援しており、利用者も張り合いを持って役割を受け止めている。今後、介護教室の開催等地域への貢献も視野に、質の高いサービスを提供できるホームとなるよう期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回要改善を指摘された、居心地良く過ごせる居室作りに関して介護支援専門員や職員により暖簾や掛け時計、写真などが飾られ暖かい雰囲気の一部作りがされていた。地域との関わりは運営推進会議の開催により、きっかけ作りが出来、お祭りの参加やボランティアの定期的な訪問等交流が広がっている。食事に関しては今後の課題として取り組みを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は管理者と介護支援専門員、計画作成担当者で話し合って記述した。職員に外部評価について説明したところインターネットで調べ、改めてホームに求められる役割を理解した職員もいた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市や包括支援センター職員、地区区長、民生委員、利用者、家族代表、管理者、介護支援専門員等をメンバーとして3回開催されている。報告に終始する会議でなく積極的な取り組み姿勢で臨んでおり、2回目の防災に関してはアドバイスにより改善すべき事項も見えて対応もより具体的となった。個人情報や協力医の問題等も包括支援センターの協力により解決し、地域診療の新たな問題も見つかった。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には面会の折や電話にて報告をすると共に意見や苦情の聞き出しをしているが現在のところ意見や苦情は出ていない。管理者は本部勤務の経験があり、また毎月の本部の会議に出席し協働関係も良く、問題が発生した場合には迅速に対応する姿勢である。事情により面会に来れない家族から「報告や連絡が細やかで安心している」との言葉があった。運営推進会議への家族の出席も多く、次回より会議の後に家族会を開催することが決まっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設から2年半が経過し、自治会長や民生委員の協力もあり、徐々に地域に開かれたホームになっていることが実感できる。散歩の際の近所の方との会話、地域保育園や幼稚園との交流、ボランティアの定期的な支援など行なわれている。今後、災害時における協力依頼や介護教室開催など双方向での連携の強化が望まれる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念にホームとしての思いを加えた「自由にありのまま 仲間と一緒に ゆったり暮らす 寄り添うケア」を事業所の理念としている。	○	グループホームの基本指針が地域密着型として示されたことから指針に沿った、ホームとしての理念について検討されることをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に職員に説明しホーム内に掲示して意識付けを図っている。自分だったらどんな家に住みたいかをホーム会議の折に繰り返し話し合い共有し、利用者に生き生きと過ごしていただけているか、理念が実践されているか振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入してお祭り等に参加したり、幼稚園・保育園に交流をお願いしてお遊戯会を参観、一緒に遊ぶ機会を持つよう取り組んでいる。近隣散歩の際には気軽く声をかけていただき、定期的なボランティアの訪問もあって地域との関わりが広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、日ごろのサービスが利用者や家族また外部にどのように映っているか確認・振り返りの機会としている。評価を活かしてホーム会議や運営推進会議でも話し合っって具体的な改善に取り組む姿勢である。	○	自己評価による気づきを期待して、次回からは是非全職員での取り組みをお願いしたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3回開催されている。第2回には消防署にも参加を依頼し、現状での問題点を指摘していただき既に改善への取り組みが始まっている。また、個人情報に絡む病院との対応について地域包括支援センターの協力により問題点の解決を図るなど利用者の暮らしの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の生活に関する相談や介護相談員の受け入れまた、医療や個人情報に関する問題など市職員、地域包括センターと協力して取り組みサービスの向上に努めている。	<input type="radio"/>	市主催の言葉の虐待についての研修に対して、「職員対象の研修にしていただきたい」との要望は積極的に働きかけて実現されるよう取組まれたたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月請求書をホームに受け取りに来ていただいで対面の機会としており、その際に近況報告や健康状態等説明をしている。なかなか訪問できない家族には電話で報告し、訪問を促している。家族からは報告連絡が細やかで安心しているという言葉があった。	<input type="radio"/>	ホーム便りの発行が懸案中なので個人情報に留意しながらも利用者の様子を伝える楽しいお便りの発行を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム行事には家族にも参加を呼びかけており、機会を捉えて意見を引き出すようにしており、これまで家族から苦情等は特に出していないが、意見や苦情には迅速に対応する姿勢である。前回運営推進会議で次回より会議後を家族会とすることが決定した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によるケアが提供出来るよう職員の移動や離職は最小限にするよう努めている。管理者は就任後、職員の労働環境の改善にも取り組んできた。新採職員は管理者が利用者や家族に紹介して安心して声かけ出来るよう関係作りに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用職員には初任者研修が義務付けられている。外部研修は希望を本部へ提出して認められると職務として受講できる。本部よりビデオによる研修資料が送られて年2回全職員が必ず勉強している。	<input type="radio"/>	すべての職員が働きやすい環境でやりがいを見出せる様、スキルアップの為の研修や勉強会を計画的に実施して職員の育成に努めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームから夏祭りに招待され利用者ともども楽しんできた。法人系列のホームへは管理者が職員を伴って見学し勉強の機会としている。管理者は情報交換の場を多く持ってサービスの向上に努めている。	<input type="radio"/>	職員レベルで同業者と交流する機会を持って、ネットワーク作りにより、幅広い情報交換をして自身の向上、利用者へのサービスの向上に繋げていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には管理者と介護支援専門員が訪問して数百に渡る項目の聞き取り調査により生活や嗜好、傾向について把握している。これまでの暮らしに出来るだけ近づけた馴染みややすい環境づくりに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の生活や行事において主体は利用者であることを意識しながら寄り添うケアに努めている。利用者の自立に向けた改善の成果は職員のやりがいを引き出している。退院してきた利用者の「梅ヶ谷に戻ってこれて良かった」の言葉は職員への何よりのご褒美である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には利用者・家族から状況や希望・要望等の情報が詳細に集められ介護支援計画に反映されている。また、利用者と職員の関係作りに活かされ利用者本位の支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に利用者の課題とケアを検討した介護計画が作成されている。利用者の自立や生活の活力を高める事を目的とし、医療関係者等の協力や指導を得ながら具体的な支援が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた見直しがされている。また、現状に即した対応にも、自分が利用者の立場なら何を望むか、どういうところに住みたいと思うかを職員は考えるように努力し、意向や希望についての聞き取りに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診への同行は家族の了解を得て行なわれている。機能低下の回復や予防目的から機能訓練を利用した体操などが行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望でかかりつけ医の受診が行なわれている。また、利用者が適切な処置が受けられるよう医師への説明には利用者の気持ちが伝わるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向や希望について早期から話し合いがもたれ方針の統一に努めている。状況の変化に応じて関係者との連絡や職員間での共有についても検討されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法について職員は理解に努めている。利用者への対応は人生の先輩として学ぶのがあるという姿勢で、言葉の虐待にも留意し、利用者への説明も分かりやすく行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしについて職員は希望に添う支援を心がけている。例えば広告を見て利用者が気に入ったものは職員が付き添って買い物に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	口腔体操や口腔ケアによる利用者の機能回復が見られ食事摂取に効果が出ている。食事の準備、片付けは利用者と職員で分担しながら行なわれている。	○	利用者に喜ばれる支援を目標に職員の努力されている様子は感じられるが、食事に関する課題と今後の支援については検討される事を希望したい。例えば昼食・夕食のご飯は施設で炊くなど出来る事からの取り組みを試みて頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	殆どの利用者が毎日入浴している。入浴前のバイタルチェックや安全な入浴への配慮がされている。また、健康状態にも配慮してゆったりと入浴を楽しんでいただけるよう心がけている。入浴剤で温泉気分を楽しんでもらうことも検討中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやつ作り、館長自らのマグロの解体ショーやボランティアの協力により利用者主体の楽しみの支援がされている。紙芝居で利用者がネコの鳴き声を担当したり、ダンスの発表会で気持ちや活力を引き出せるような工夫もしている。時には回転すしなど外食を楽しむこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩で近所の方や保育園の園児との交流がもたれ利用者の楽しみとなっている。ボランティアとの散歩や買い物の他に個々の希望に沿った外出にも出来るだけ対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないが、夕方以降の対応は順番の判断により対応している。職員は利用者の行動を把握し見守っている。また、地域の方と顔見知りになり、利用者が安心して外出できる環境づくりへ配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議に消防署の方に参加していただき防災・災害時の説明・指導を受けた。資料を作成し具体的な訓練が行われた。また、ヘルメットや備蓄に関しても検討されている。	○	防災訓練に地域の参加について検討されるよう希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量は介護記録に記録されている。水分量の記録はされていないが、1日に約1200ccを目安に摂られている。また、状態に応じて水分量は計量・記録され、習慣に応じた支援も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の施設的なイメージを和らげるよう、図案化した理念の掲示や製作品の展示など心地良く過ごせる空間作りがされていた。フロアにはクリスマスの飾り、窓には植木鉢などが置かれ、ソファには手編みのカバーが掛けられなど室内は家庭的な雰囲気であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は使い慣れた鏡台などの家具が配置されている。持込まれない利用者には職員が配慮し小物や園児の作品、手作りのなどが飾られ温かみを感じられた。職員は利用者へ声掛けしてから入室されていた。		